

④ バッタ捕り

1 子どもたちに伝えたいこと

- ・バッタ捕りを通じて身近な生き物に親しむ。
- ・環境によっていろいろなバッタがいることを知り、バッタの暮らす環境について考える。

2 実施時期：8月～9月

3 実施場所：野外（草原等の原っぱ）

4 対象学年：低学年～中学年向き

5 関連教科：生活科、総合、理科

6 時数：2時限

7 事前準備

- (1) 学校：バッタについて事前学習、服装について児童に伝えておく（長袖・長ズボン・帽子）
- (2) どんぐりクラブ：フィールドの下見、バッタの資料（図鑑的なもの）の作成

8 当日

(1) 準備する材料や道具

学校：バッタとりの道具（虫捕り網、プラスチックコップなど）、バッタを入れる入れ物（虫かご、ビニール袋など）

どんぐりクラブ：虫捕り網、ボランティア袋（ゴミ拾い用）

(2) 授業の流れ

① あいさつ、資料の配布

② バッタの説明

- ・資料をもとにバッタの種類、どこにいるか、どうやって捕るのかの説明をする。
- ・バッタ捕りの範囲、入ってはいけない場所について説明する。

③ バッタ捕り

- ・グループに分かれてバッタとりをする。
- ・どんぐりクラブの人は、子どもたちの安全管理をしながら、相談にのったり、手伝いをする。

④ まとめ

- ・各グループで、捕ったバッタの種類を調べて、種類ごとの数を数える。
- ・捕ったバッタの種類と数からその場所の環境について考える。

※バッタの種類ごとに点数を設定(自然度の高い環境にいる種類は点数が高い)して、(バッタの点数) × (捕った数) で点数を計算する方法もある。

⑤ 終わりのあいさつ

9 備考

- ・低学年の場合、ねらいを「身近な生き物に親しむ」に絞れば校庭でも可能。
- ・環境の違いによっていろいろなバッタがいることを学習するには、河原など多様な環境のあるフィールドで行うことが望ましい。
- ・季節は、バッタが成熟し種類の判別ができるようになる9月が適期。
- ・捕った生き物はできるだけ逃がしてあげる。



<おんぶバッタ>



<河原でバッタ捕り>